

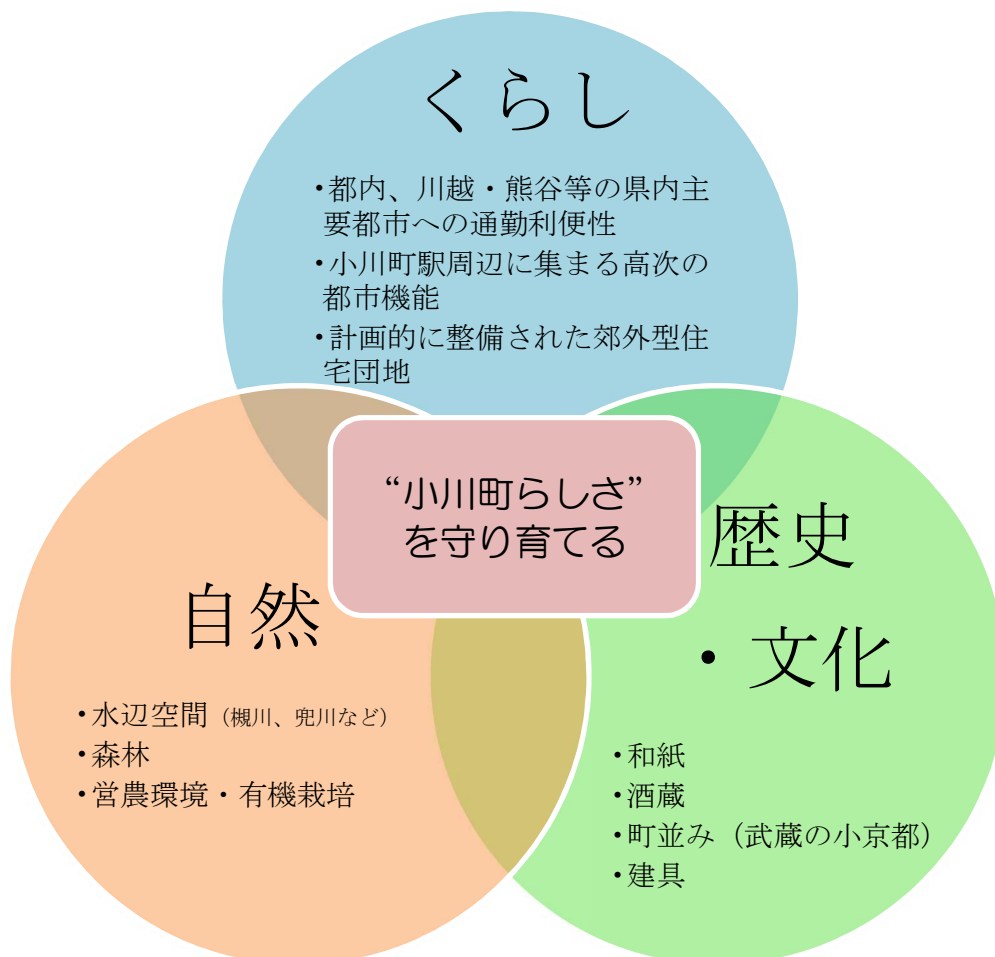
5. 立地適正化計画の基本方針の設定

5-1. まちづくりの方針

町の概況及びまちづくりの取組状況、解決すべき課題などを踏まえ、本計画におけるまちづくりの方針を次のように設定します。

“小川町らしさ”を守り育てるまちづくり
～「くらしと歴史・文化・自然の調和」と「次世代への継承」～

“小川町らしさ”を構成する様々な要素を地域資源として存分に生かしつつ、次世代へと着実に継承することで、人口減少下においても持続的に発展するまちづくりを目指します。



5－2．目指す都市の骨格構造

（１）中心拠点の形成

中心拠点は、全町民が利用するような、基幹的な都市機能が集まる拠点の形成を目指します。

中心拠点及びその周辺は、小川町駅まで歩いて行ける場所で、都内、川越・熊谷等の県内主要都市へ移動しやすい立地優位性を備え、商業施設や診療所などの生活サービス施設が集まっています。この中心拠点及びその周辺を、歩いて暮らせる環境が整った「まちなか居住」の場として位置づけ、活気ある中心拠点を目指します。

また、中心拠点周辺に集まる歴史・文化資源を身近に感じながら暮らし・働くことができる本町特有の都市空間を生かして、小川町らしさを満喫できる、移住希望者や出店希望者に選ばれる中心拠点を目指します。

（２）みどりが丘拠点・東小川拠点の形成

将来にわたって良質な郊外型住宅団地である「みどりが丘団地」、「東小川団地」を維持していくため、日常生活や地域内外との交流を支える団地内の拠点となるみどりが丘拠点・東小川拠点の形成を目指します。

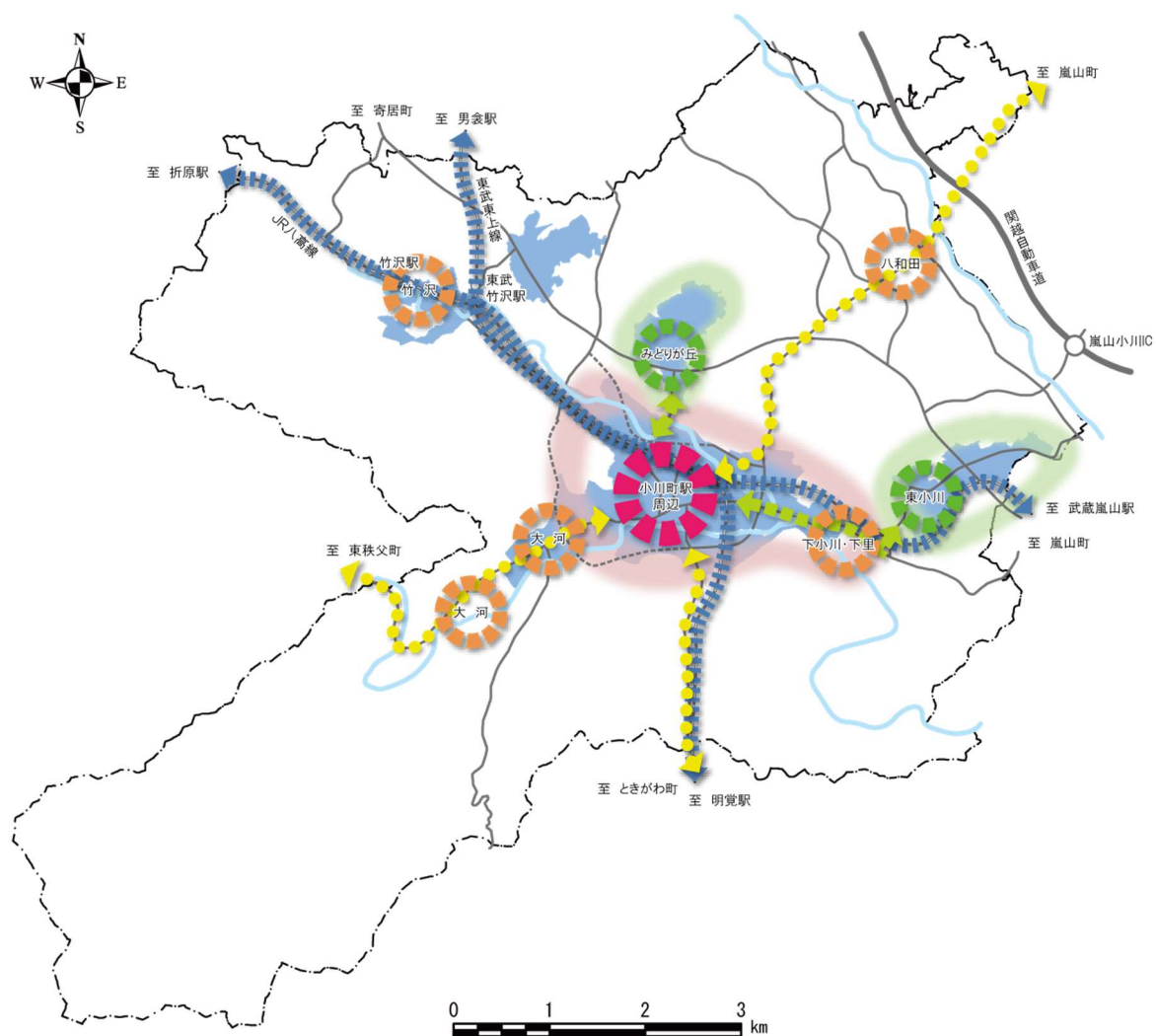
みどりが丘拠点・東小川拠点及びその周辺は、計画的に整備された良質かつ大規模な住宅団地が形成されています。この住宅団地を、戸建を中心としたゆとりある住環境が整った「郊外型のまちなか居住」の場として位置づけ、生活者でにぎわう生活拠点を目指します。

（３）集落地域の拠点の形成

緑を身近に感じられるゆとりある居住環境と豊かな自然・営農環境を併せ持つ集落地域の魅力を維持するとともに、集落地域に暮らす町民が将来にわたって安心して住み続けられるよう、地域内での様々な活動の場となる集落地域の拠点を形成します。

（４）公共交通によるネットワーク軸の形成

集落地域の暮らしを支えるため、町内各地から中心拠点に公共交通で移動できる交通環境を将来にわたって維持し、既存の路線バスを生かした公共交通ネットワーク軸の形成を目指します。



| | | |
|------------------|-----------------------------------|--|
| 中心拠点の形成 | 都市機能が集まる拠点 | |
| | まちなか居住の場 | |
| | 小川町らしさを満喫できる、移住希望者や出店希望者に選ばれる中心拠点 | |
| みどりが丘拠点・東小川拠点の形成 | 団地内の拠点 | |
| | 郊外型のまちなか居住の場 | |
| 集落地域の拠点 | 各地区での様々な活動の場 | |
| 公共交通ネットワーク軸の形成 | 町内外を連絡する幹線軸 | |
| | 中心拠点とみどりが丘拠点・東小川拠点を連絡するバス幹線軸 | |
| | 中心拠点と集落地域を連絡するバス軸 | |

図 目指す都市の骨格構造

5－3．課題解決のための施策・誘導方針

（１）町の活力と利便性を支える中心拠点づくり

①基幹的な都市機能の維持・確保

町内各地と路線バスで連絡されている小川町駅を中心に、こどもからお年寄りまで様々な町民が利用する基幹的な都市機能の維持・確保を図ることで、全町民の暮らしを支える中心拠点を形成します。

②まちなか居住の誘導

歩いて移動できる範囲内に生活サービス施設が整ったまちなか居住の場を確保し、まちなか居住を誘導します。

③歴史・文化資源を生かした居住の誘導

中心拠点に集まる歴史・文化資源を身近に感じながら暮らす・働くことができる都市空間を維持・確保し、町民だけでなく町外からの移住希望者や出店希望者も視野に入れて居住を誘導します。

④小川町駅周辺の交通結節機能の改善

小川町駅の南北に分散する都市機能間の交流促進を図るとともに、町内北部から小川町駅へのアクセス利便性を高めるため、小川町駅周辺の交通結節機能を改善します。

（２）良質な郊外型住宅団地の次世代への継承

①定住人口の維持・確保

都市部にはない「自然が身近で、戸建中心のゆとりある住環境」を次世代に継承するため、みどりが丘団地と東小川団地における定住人口の維持・確保を図ります。

②魅力ある「みどりが丘団地」の維持

みどりが丘団地の人口定着・流出抑制を図るため、生活サービス施設が集まるみどりが丘拠点や、良好な居住環境、利便性の高い公共交通を将来にわたって維持することで、魅力ある郊外型住宅団地としてみどりが丘団地を維持します。

③魅力ある「東小川団地」の維持及び定住促進

東小川団地の人口定着・流出抑制を図るため、生活サービス施設が集まる東小川拠点や、良好な居住環境、利便性の高い公共交通を将来にわたって維持することで、魅力ある郊外型住宅団地として東小川団地を維持します。

特に東小川団地は、みどりが丘団地に比べて人口減少が先行して進んでいることを踏まえ、住宅団地の中心部における生活サービス施設の充実を図ることで、地域住民が住み続けられる環境や、町外に暮らす子育て世代や町内従業者、町内出身者等の定住促進を目指します。

（３）持続可能な集落地域を支えるコンパクトな都市構造の構築

①中心拠点の形成及び交通ネットワークの確保

優良な自然・営農環境のもとでの田舎暮らしを将来にわたって営むなかで、高次の都市機

能が集積する中心拠点の形成と、必要なときに中心拠点に行って用事がこなせるよう中心拠点への交通ネットワークの確保に一体的に取り組むことで、持続可能な集落地域づくりを下支えします。

都市的な利便性をもつ中心拠点や町外の都市部とのつながりを確保することで、元気な高齢者が集落地域に住み続けられ、また若者・子育て世代の移住者・就農希望者に選ばれる集落地域を形成します。

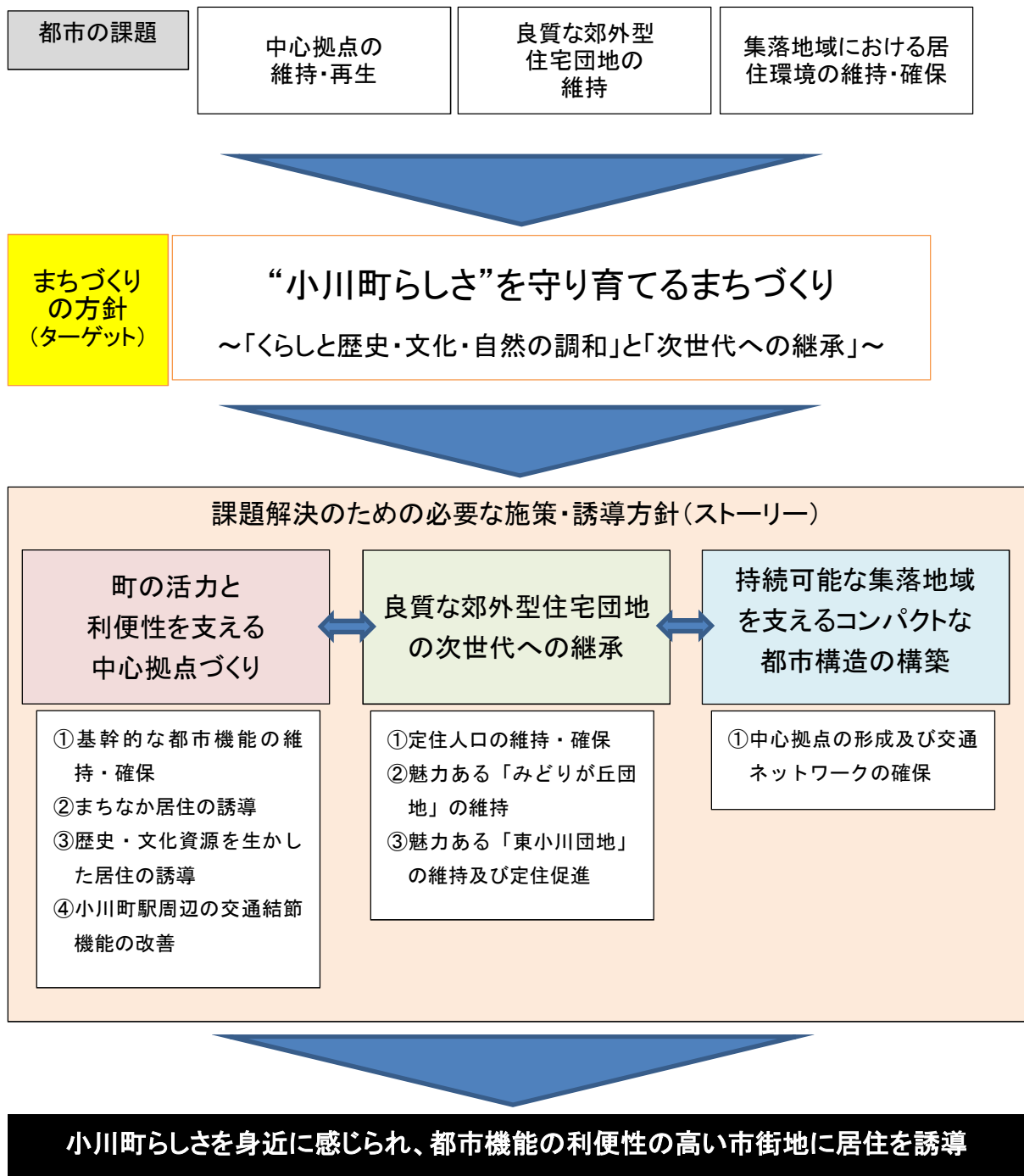


図 本町の立地適正化計画の基本方針（ターゲットとストーリー）

5-4. 本計画が目指すまちの姿

「小川町らしさ」を守り育てるまちづくりを目指したまちづくりを推進することにより、中心拠点の利便性及び中心拠点を中心とする公共交通ネットワークの維持・向上を図り、町内外から中心拠点や郊外型住宅団地への居住誘導を図ることで、持続性が高くコンパクトな市街地の形成を目指します。

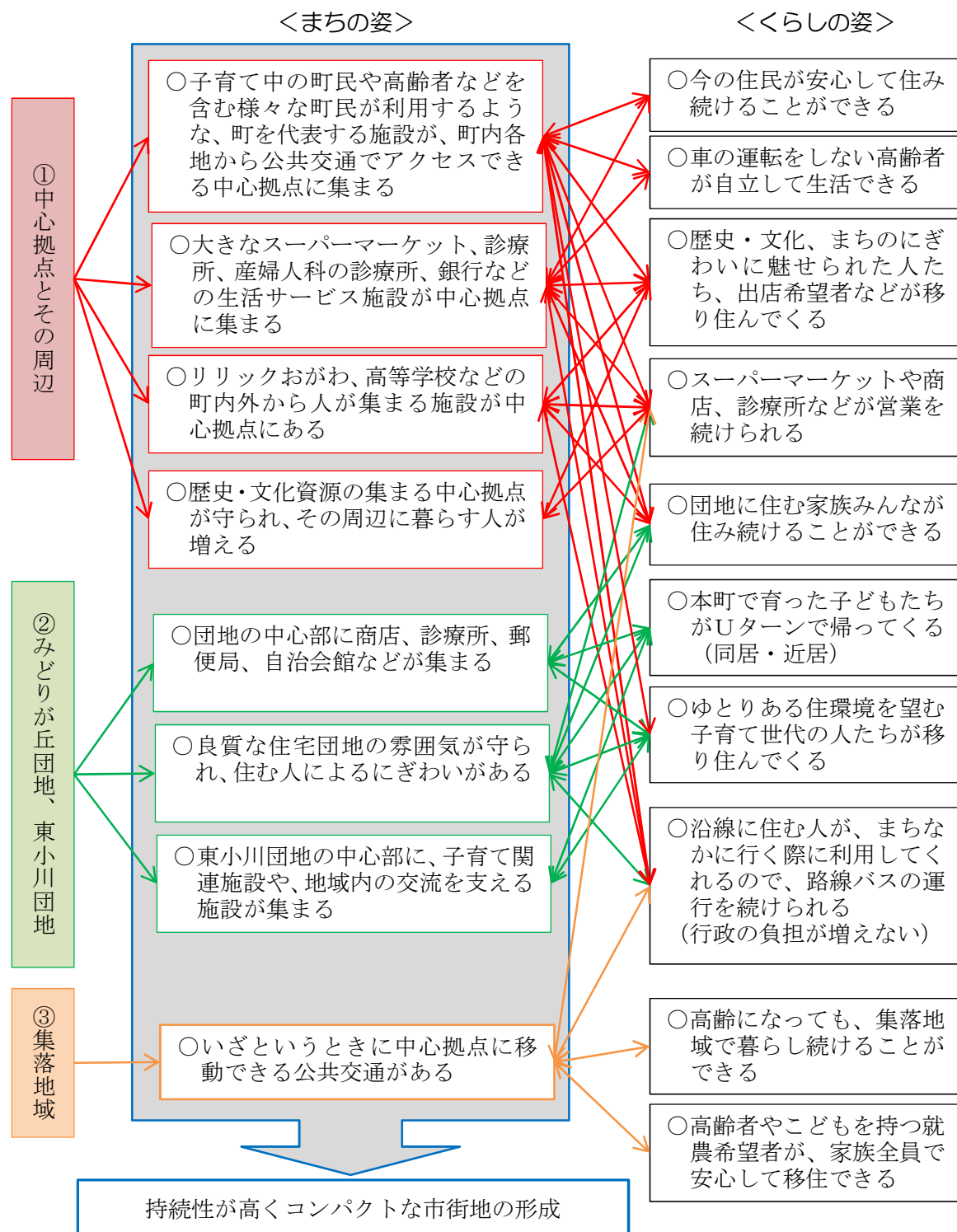


図 本計画が目指すまちの姿

